



Child Family Consultant

ベーシックコース 第1回



NPO法人 子育て学協会



自己紹介

山本 直美(やまもと なおみ)
 NPO法人子育て学協会 会長
 株式会社アイ・エス・シー 代表
 (Infinite Stage for Children)
 チャイルド・ファミリーコンサルタント



- 保護者と子どものための教室『リトルパルズ』を開設
- 独自教育プログラム『With Bookプログラム』の開発・展開
- -子育ての専門家『CFC(チャイルド・ファミリーコンサルタント)』の育成(NPO子育て学協会委託)
- 認可・認証・小規模保育園『ウィズブック保育園』『リトルパルズ保育園』の運営 (首都圏・名古屋 全33園)
- 児童発達支援スクール『コペルプラス』の運営(首都圏・名古屋 全4園)
- 企業内研修、パパママ向け講座、キッザニアプログラム監修、育児関連書籍出版



現代の若者・小中高教育の問題は、発達心理学の観点でみると 幼児期の子育ての問題と必ず繋がっていると言えます

問題点としてよく語られている数値

フリーター182万人 (H26)

小中高の学校における暴力6.6万件 (R2 ※H9=2.8万件)

ニート56万人 (H26)

小中高不登校件数23.9万人 (R2)

引きこもり69.6万人 (H26内閣府定義)

児童相談所虐待相談20.7万件 (R3 %H25=7.3万件、H10=0.7万件)

問題点としてよく語られている言葉

乳幼児期の子どもたちはみんな持っている



現代子育ての一番の問題は、

幼児期に「樹の根=人格形成の基盤」が整いにくく

「人への基本的信頼」「自律性」「積極性」など

発達課題の獲得に支障をきたしかねないこと



スキルだけに偏った早期教育の状況 1~6歳の47.4%が習い事 水泳、体操、通信教育、英会話・・・

樹の根 = 人格形成の基盤の状況

心の安定に影響の大きい 人的環境が乏しい

- 核家族化、兄弟数低下
- 地域コミュニティの不活性化

子どもらしく遊ぶ 余裕が少ない

- 家にいる時間は5年間で 1時間前後減少
- 2割のママは、「早期から 文字や数を教えるべき」

本来は親子の コミュニケーションの質向上 により目を向けるべき 主体的に探究し、 何かを獲得する 余裕の少ない子ども達

生活リズムの乱れ

46%は21時以降就寝

成長への悪影響だけでなく 集中力欠如、衝動行為 とも相関



私たちは子どもの「根」を整え"自ら伸びるチカラ"を育むことが 青年期の様々な問題の予防、未来の日本を背負う人材育成に繋がると考え、 発達予防学の観点から【幼児期からのアイデンティティ教育】の普及活動をしていま



人格形成の基盤3要素を整える、

「幼児期からのアイデンティティ教育」

自分らしさが備われば、子どもは自ら伸びる

心の安定

親子が共感共鳴を繰り返し信頼関係を 築くことで育まれる

また、人的環境のバランスを取ることが大切

快動

大好きな興味をもったことを繰り返すこと 子どもは「快」として心に刻んでおり、

自分らしさの形成に繋がる

自律

「やりきる」「挑戦する」など人としての 姿勢の部分 生活や遊びを通じて身近な 大人が地道に関わることで獲得できる



CFCを学ぶルール

1. 必ず事前資料には目を通し、課題を行った上で参加する

2. 主体的に行動し、積極的に関わる態度を忘れない

3. 参加者がお互いに学ぶ姿勢を持っていることを尊ぶ

4. 時間を守る



講座の中の共有・議論への取り組み方

<話す>

- ・限られた時間の中で、自分が話す配分を心がける
- ・話したくないことは無理に話さないで良い

<聞く>

- ・話をさえぎって途中で口を挟まず、最後まで聞く
- ・相手が気持ちよく話せるような聞き方を心がける
- ・違う意見や違う視点、他の人の意見を一つの意見として肯定的に 受け止める



本日のスライドは事前共有しております。 必要に応じて、ご自身でダウンロードや

印刷をお願いいたします。

当日テキストに自身で「ポイントと思うこと」 「気づき」などを積極的にメモを取ってください。



今回の参加者のみなさま

- 子育てに活かしたい
- 仕事のスキルUP・幅を広げる
- 将来のキャリアとして

本日のアジェンダ



- 1. CFC概論
- 2. こころのこと①、②
- 3. かぞくのこと
- 4. 現代子育てのこと

まとめ・事後課題・アンケート

休憩を50分~1時間に1回予定しています。 昼食の休憩は12:30~13:30を予定しています。

休憩に入るタイミングで次の開始時間をお伝えします。



CFCとは

CFCとは何か?

Child Family Consultant 「育ち合いの専門家」

- ①主に幼児期の子どもが対象
- ②領域を子どもに限っていない

● CFCベーシックコースで学ぶこと

発達心理

徳育

自分を知り、理解する

コミュニケーション

WithBook 子育て学講座 講師養成



育ち合いの専門家

子どもの専門家







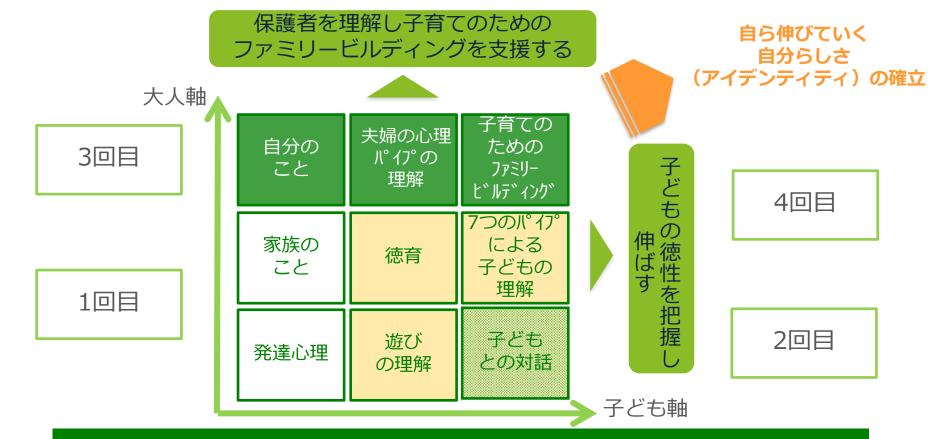






養成講座ベーシックコースの履修内容

- "発達予防学"とは、子どもが健全に成長するために必要な予防的観点の学び
- •子どもの徳性を把握し伸ばすため、また家族形成の支援をするための2軸で必要な知識・スキルを学ぶ



20年以上幼児教室で親子に実践されてきた理論を学ぶ

2016/4/1 作版



CFCベーシックのゴール

「育ち合いの専門家として必要な、基本的知識や心得を 修得している状態」

「保護者と子どもの成長に対して、

一段深く効果的な

関わりができる状態」

人間のこころの成長過程を、『子どもと大人の相互性』 という視点で見ることができる状態



1-1. メカラウロコプログラム① 「積み木・ブロックワーク」

「目の前にある積み木やブロックを使って好き なものを作ってみてください」と言われたら何 を作りますか?

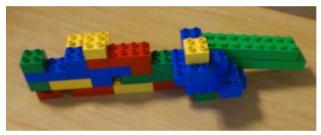


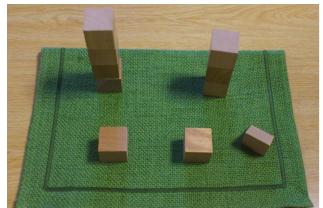




1-1. メカラウロコプログラム①

「積み木・ブロックワーク」:解説









気づき

子どもの視点に立つということは意識しないと難しい



1-2. 事前課題①についてのディスカッション 「すぐに物にあたり、他児をたたく子どもが います。あなたはどのような対応をしますか?」

● 上記についての各自回答を共有し、 議論してください。

グループ : 6分

全体共有 : 5分



1-2. 事前課題①についてのディスカッション

:解説

なぜそれが起きているか? どのような対処をするか? が、 「子ども」にだけ向いていませんか?

子どもへのアプローチ

大人へのアプローチ

親との信頼関係の結び方は、 コミュニケーションのパートで学び直します



(休憩10分)



誰もが子どもを通って大人になっているので 子どものことを分かった気になりやすいが、こんなに違う

概念	ない	ある
時間軸	ない	ある
視野の幅	せまい	ひろい
五感	鋭い	鈍い
比較	しない	する
チャレンジ	したい	考える
満足度	プロセス	結果
感動	多い	少ない
本音	言う	考える
意識	ない	ある

だからこそ、改めて子どものことをちゃんと学びたい



1-3. 事前課題②、③についてのディスカッション課題図書「史上最強 よくわかる 発達心理学」等発達心理について読んでいただいたものと、「愛着障害 子ども時代をひきずる人々」について

- この課題図書を読んでの「気づき・感想」を 共有してください。
- グループ:5分



履修ゴール

CFCのベースとなる発達心理学を理解する

▶なぜ発達心理学を学ぶ必要があるのか? 人の成長を支援するためには、目に見えることに留まらず、 目に見えないことについても本質的に理解しておく必要がある

青年期にアイデンティティの拡散に陥らないために 幼児期にクリアすべき発達課題を理解する

エリクソンの生涯発達の課題について知る



2-1. 発達心理学とは(学ぶ意義と構造)

基本:「人が発達をすることが前提の心理学」

「発達」という言葉の印象から、子どものことを中心に考える人が多いが、大人も生涯に亘り上向き・下向きに成長を繰り返し成長していく。乳幼児から老年期に至るまで生涯発達する、という基本概念に基づく学問である。

特に、講座では青年期に起こる問題行動に対する知見を深める。 (青年期における問題行動を、幼児期の発達心理上の課題や 家庭環境との連動性について理解する。)



● 子育ての観点で知っておきたい発達心理学

年齢	エリクソン	フロイト	
0~1歳	乳児期	口唇期	
1~4歳	幼児期前期 (早期幼児期)	肛門期	
4~6歳	幼児期後期 (遊戯期)	男根期	
6~12歳	学童期	潜伏期	
12~15歳	思春期		
15~18歳	青年期	性器期	
18歳~	成人期	工石百兴]	
100%	生涯発達	性の発達	

2016/4/1 作成 無断複製禁止 子育て学協会 23



● 子育ての観点で知っておきたい発達心理学

年齢	ピアジェ	
~1ヶ月頃	感覚運動期	第1期
1~4ヶ 月頃		第2期
4~8ヶ 月頃		第3期
8~12ヶ 月頃		第4期
12〜18ヶ 月頃		第5期
18~24ヶ 月頃		第6期
2~7,8歳	前操作期	
7,8~ 11,12歳	具体的 操作期	
11,12~ 14,15歳	思考の発達	

	ボウルビィ	年齢
	第一段階 初期の愛着段階	~12週
	第二段階 愛着形成段階	12週~ 6ヵ月
	第三段階 明確な愛着段階	6ヵ月~ 2,3歳
第四段階 目的修正的協調関係		2,3歳~
	愛着形成段階 第三段階 明確な愛着段階 第四段階	6ヵ月 6ヵ月〜 2,3歳

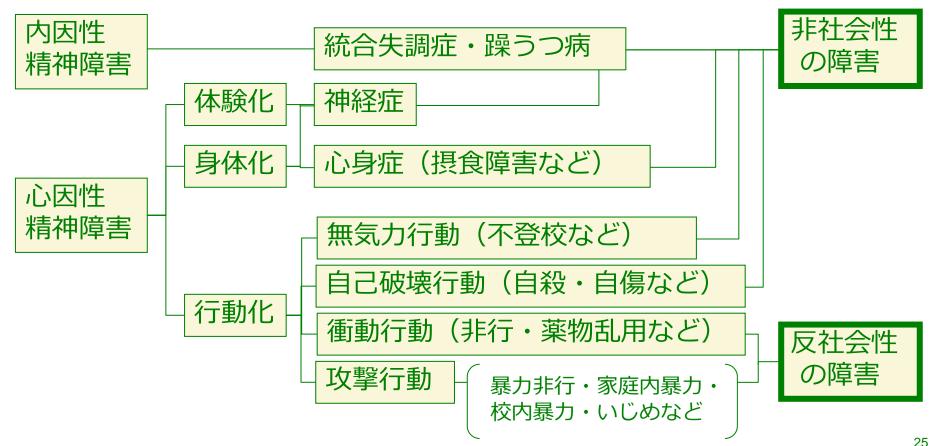
愛着(アタッチメント)

上 子育て学協会



2-2. 青年期における問題行動

● 青年期の精神障害・問題行動の分類



2016/4/1 作成 無断複製禁止 子育て学協会



2-2. 青年期における問題行動 (原因考察)

- 摂食障害
- 1) 母親をモデルとした性的同一性の形成に失敗 母親の体型に対しての考え方が影響、期待に添えない自分を 容認できない
- 2) 不安に自己抑制できなくなる 不安を抱えたときに、他者の目に映る公的自己像で占められ、 コントロールできなくなっていき、安心させるために 食事を制限してしまう



2-2. 青年期における問題行動 (原因考察)

● 摂食障害

<親の要因>

言葉がけが強い抑制型

例:「○○しちゃいけません」、「絶対に○○しないでね」、 「ママは○○するような子は知りません」

→常に○○しなければならないと、緊張状態が続くことが スタンダードな環境



2-2. 青年期における問題行動 (原因考察)

● 不登校(登校拒否)

1)万能的自己像の形成

母親の過保護な養育態度。

子どもの欲求を過度に受入れて、甘やかす傾向 子どもが傷つきやすく、衝動的な性格に育つ。自分を評価している

2) 自己像に対する脅威の回避

成績や人間関係につまずいた時に、現実の自分を受けとめることが できず、家庭内に退避する

一方で学校側や教師の態度の問題も指摘されている



2-2. 青年期における問題行動 (原因考察)

● 不登校(登校拒否)

<親の要因>

例えば「子どもが何も言っていないのに、○○が欲しいのね」と先読みして与えてしまう。

- 「○○した方がいい」と本人を気持ちを無視した押し付けをする。
- 「○○は恥ずかしがり屋で自分では挨拶ができないのよね」と 子どものできない姿を大人が回避する。



2-2. 青年期における問題行動 (原因考察)

● 家庭内暴力

1)親子関係のゆがみ

- ①母親の過干渉、過保護が圧倒的多数
- ②父親の放任:物静かで自信に欠けるが職場では優秀。 家庭から逃避して放任し、子どもとの接触も少ない。
- ③夫婦の関係性:母親優位、不仲、父親の心理的不在、片親欠損など、 両親間の交流が少なく、母親は子どもへより依存していく。
- ④母子の相互依存:父親不在が、相互に離れられない関係を作る。
- ⑤父性の欠如:父との安定した交流がないため暴力を抑制するはずの 良心や罪悪感が育たない
- ⑥母子共生:以上のような状況は、子にとっては、重たい母親と 影の薄い父親と映る。 父は孤立し、母子は密着し、心理的距離が減少する。

つまり子はいわば精神的な夫の座に座らされることになる。



2-2. 青年期における問題行動 (原因考察)

● 家庭内暴力

<親の要因>

親の養育状態のサイン

- ・子どもに対して溺愛をしている
- ・(父親)に対しての感情が拒絶傾向な発言をする



(休憩5分)



2-3. 幼児期の問題行動

● 青年期に繋がる幼児期の6つの問題行動 【ワーク】子どもの背景に考えられることはどんなことがありますか

1. にらむ	大人の抑圧・矛盾があっても反論させない	
2. 大人への依存 (遊び・製作など)		
3. チック		
4. かんしゃく		
5. うそをつく		
6. 自傷		

2016/4/1 作成



2-3. 幼児期の問題行動

● 青年期に繋がる幼児期の6つの問題行動

1. にらむ

大人の抑圧・矛盾があっても反論させない

2. 大人への依存 (遊び・製作など) 過保護・大人が何でもしてしまうことで必要な経験が不足 達成感、集中力、チャレンジ精神の欠如・自信喪失

3. チック

愛情不足・無意識に無理をさせている

4. かんしゃく

感情的になった際に大人が丁寧に向き合っていない・親が日常的にヒステリックな状態を見せている可能性も

5. うそをつく

自分以外に目が向いていて、寂しさを感じている(妹,弟など)・ 親の期待が過度である

6. 自傷

存在認証を求めるアピール行為・不安



- 1. にらむ▶ 言葉に出来ない怒りを「にらむ」という行為で表現している。自分の声を「どうせ聞いてくれない」という概念ができ、人に対して心を閉じていく可能性有り。クラスメートや小動物、家庭内など、弱い者にエネルギーをぶつけるステップを踏む可能性有り。
- 2. 大人への依存▶自身で考えることが困難となり、固定化した概念で「型」にはまった 生き方(ステレオタタイプ)となる。 環境の変化に極端に対応できず、引きこもりとなる可能性有り。
- 3. チック▶ 一過性のもあるが長期に渡る場合は親の心の不安定にある場合が多い。 将来的に対人関係に支障がでることがある。(脳の障害のケースも有)
- 4. かんしゃく▶ □コミュニケーション不全による孤立化。クラスメートや小動物、家庭内など、弱い者にエネルギーをぶつけるステップを踏む可能性有り。
- 5. うそをつく▶ 自尊心の欠如から人に頼ることができず、うつ状態に陥る可能性有り。抱え込むことで身体・精神の不調に繋がる可能性有り。
- 6. 自傷 ► アピールがステップを踏み、リストカット等の自傷行為を招く可能性有り。うつ状態にも陥りやすい。

2. こころのこと①



2-4. エリクソンの発達段階について

8つに分かれた各発達段階は、発達に伴って契機してくる心理社会的葛藤を示しており、それぞれ二つの要素から成り立っていることを理解する。

二つの要素とは、漸成図表の上段と下段に記載されたもの。

I 乳児期	信頼 対 不信		
Ⅱ 早期 児童期		自律性 対 恥疑惑	
遊戯期			積極性 対 罪悪感
IV 学齢期			
V 青年期	時間展望 対 時間拡散	自己確信 対 自己意識	役割実験 <mark>対</mark> 否定的 同一性

上段:相対的にみると健康な場合の基準で、

個人が出会う危機を首尾よく

解決した際に獲得される好ましい

自我の特質である。

下段:相対的にみると病態的な場合の基準で、

上段の好ましい自我を獲得する際には

常に同時に存在する。

2. こころのこと①



漸成図表 <全体>

	I 乳児期	信頼 対 不信				一極性 対 早熟な自己 文化			
	Ⅱ 早期 児童期		自律性 対 恥疑惑			両極性 対 自閉			
	遊戯期			積極性 対 罪悪感		遊戯同一化 対 空想同一性			
	IV 学齢期				生産性 対 劣等感	労働同一化 対 同一性喪失			
	V 青年期	時間展望 対 時間拡散	自己確信 対 自己意識	役割実験 対 否定的 同一性	達成の期待 対 労働麻痺	同一性 対 同一性拡散	性的同一性 対 両性的拡散	指導性の 分極化 対 権威の拡散	イデオロギー の分極化 対 理想の拡散
	VI 初期 成人期					連帯 <mark>対</mark> 社会的孤立	親密さ 対 孤立		
	VII 成人期							生殖性 対 自己吸収	
2016	VⅢ 成熟期 √4/1 作月	1 2			断複製禁止 子育て				完全性 対 嫌悪,絶望

2. こころのこと①



2-5. アイデンティティの拡散について

- 1)対人的距離の失調(親密さの問題)
- ▶対人関係に緊張・ステレオタイプ

2)過剰同一視と自意識過剰

▶相手に強力な全能を求める

3)時間的展望の拡散

▶「時間」の意識が喪失・生活事態が緩慢

4) 勤勉性の拡散

▶課題に集中できない・自己破壊的に没入

5) 否定的同一性の選択

▶社会に対して軽蔑、嫌悪。属さない自分

6) 選択の回避・麻痺

▶決定できない・選択しない



(お昼休憩60分)

2016/4/1 作成 無断複製禁止 子育て学協会 39



履修ゴール

CFCのベースとなる発達心理学を理解する

▶なぜ発達心理学を学ぶ必要があるのか? 人の成長を支援するためには、目に見えることに留まらず、 目に見えないことについても本質的に理解しておく必要がある

各発達心理学者の理論のポイントを知る

青年心理学と乳幼児の繋がりを知る



2-6. 各発達心理学者についての解説

●フロイト:精神分析的発達理論

ヒステリーの研究

無意識

エデュプス・コンプレックス



2-6. 各発達心理学者についての解説

●フロイト:精神分析的発達理論

子育て・子育て支援に活かせるポイント

- ・子どもの不都合に見える行動も大人を困らせようとしていることではなく無意識に興味を持ったことをしていると理解する。
- ・強く叱ったりせずに、"○○したかったんだね、でも今は△△で遊ぼうか"など、気持ちを受け止める
- ・大人も無意識にストレスが溜まっている時に、人に必要以上に強く 言ってしまうことがある。
- ・子どもがいけないことをした時に、"そういうことをしたらあぶないよ!"と言えばいいところを、"そんなことしてたら怪我しちゃうよ、言うことを聞かない子は知りません、怪我して救急車で運ばれちゃいなさい"など余計なことを言い過ぎるときが人にはある



2-6. 各発達心理学者についての解説

●フロイト:精神分析的発達理論

●子育てに活かすポイント

ヒステリー=小さい時に抑圧されることが原因となる エデュプスコンプレックス=同姓の親にライバル意識を 持つ時期がある、子どもの行動分析に活かしたい

親としてはそういう行動をしても強く反応しないこと



2-6. 各発達心理学者についての解説

● ピアジェ:自主的認識論や発達論

保存の概念

コンピテンス

鈴を鳴らす

鈴の音を聞く





コンピテンスが 高まる 周囲の人に褒められる

心地よさの体験

快動

心地よさを求めて繰り返し 音を鳴らすようになる



2-6. 各発達心理学者についての解説

● ピアジエ:自主的認識論や発達論

年齢	段階	步 自	動き(手・指の動き)
~1ヶ月頃		第1期	おっぱいの吸い方が上達するなど、原始反射を駆使し て環境に適応していく
1~ 4ヶ月頃		第2期	見る、つかむ、吸うなど単純な動作ができる。行為そ のものを楽しみ、同じことを繰り返す(循環反応)
4~ 8ヶ月頃	感覚	第3期	目と手の反応が成立。行為による結果に関心を示し、 行動を繰り返す(第2次循環反応)
8~ 12ヶ月頃	運動期	第4期	布を取り除いてその下にあるおもちゃを取るなど、目 的を達成するために手段を選ぶ
12〜 18ヶ月頃		第5期	目的を達成するために手段を試行錯誤し、新しい手法 や方法を発見する(第3次循環反応)
18〜 24ヶ月頃		第6期	表象が発達する。頭の中で行動を考え、より適した行 動を選ぶことができる

201



2-6. 各発達心理学者についての解説

● ピアジエ:自主的認識論や発達論

年齢	段階	動き(特徴)
2~7,8歳	前操作期	 ごっこ遊びが見られる⇒イメージによる思考ができる時期 物事に対してはっきりした概念が成立していない (例:4本足の動物を「ワンワン」と呼ぶなど) イメージと言語を併用して思考する 概念が安定し、一般的な概念に近づく時期 論理的な思考ができず、直観的な判断をする⇒「保存」の概念ができていない
7,8 ~11,12歳	具体的 操作期	・論理的思考が成立する時期 ・抽象的な概念については論理的思考ができない
11,12 ~14,15歳	形式的 操作期	・成人と同じような論理的思考ができるようになる時期 ・抽象的な概念、架空の事象についても論理的思考ができる



2-6. 各発達心理学者についての解説

● ピアジエ:自主的認識論や発達論

【ワーク】

子育て・子育て支援に活かせるポイントを 共有してください。



2-6. 各発達心理学者についての解説

● ピアジエ:自主的認識論や発達論

●子育てに活かすポイント

親としては、

認知の発達の妨げになるので、コンピテンスを奪わないこと

※コンピテンス

潜在的に持つ深層言語や、環境に働きかけ自分の有能さを 追及しようとする動機づけなどと一体化したもの。

例)意欲や興味、コミュニケーション



2-6. 各発達心理学者についての解説

● ボウルビィ:対人能力の基礎となる愛着行動(アタッチメント)

第1段階【〜生後12週】 初期の愛着段階 動いている人、話している人をだれかれとなく見る 近くにいる人に手を伸ばしたり、微笑したり、「ウー、ウー」 と話しかける。母親と他人の区別ができていない

第2段階【生後12週~6か月】 愛着形成段階 母親があやすほうが機嫌がいい 母親と他人と両方がいるときは、母親をよく見る 母親と他人の区別ができるようになる

第3段階【6か月~2、3歳】 明確な愛着段階

母親がそばを離れようとすると泣き叫んだり、後を追う 泣いていても、母親が抱き上げると泣き止む 母親への明確な愛着を形成、愛着の対象が、兄弟へも広がる

第4段階 (2、3歳から) 目的修正的協調関係

母親と少し離れても安心して過ごせる 認知能力が発達し、母親の感情や行動目的を 推測できるようになる



2-6. 各発達心理学者についての解説

● ボウルビィ:対人能力の基礎となる愛着行動(アタッチメント)

【ワーク】

子育て・子育て支援に活かせるポイントを 共有してください。



2-6. 各発達心理学者についての解説

● ボウルビィ:対人能力の基礎となる愛着行動(アタッチメント)

●子育てに活かすポイント

愛着が人格形成に影響することを理解しコミュニケーションする

- ・顔=笑顔
- ・目=視線を合わせる
- 耳=最後まで聞く
- ・鼻=いつもと違う動きに敏感になる
- ・口=ゆっくり話す
- ・手=体を触る
- ・腹=受け止める
- ・足=マネ(同じ行動)をする



2-7. マズローの欲求階層説について

愛する能力を持つ

ありのままの自己、 確たるアイデンティティ、 自主性、独自性をもつ

自尊の欲求

自己の客観性、 離れた立場に立って 自己を超越できる

所属と愛の欲求

安心・安全の欲求

生理的欲求

マズローの5段階説



2-7. マズローの欲求階層説について

● 母親の欲求段階(山本イメージ)

私らしく 子育てし たい

よりよい状態を探究し、既存の概念に囚われず子育て その他の日常を楽しんで生活したい

母親としても個人としても価値を尊重されたい

配偶者や子どもに愛され必要とされている存在でありたい

親戚・地域・友人など、争いごとのない中で子育てやその他の生活を送りたい

子ども・配偶者と一緒にいたい



(休憩10分)



2-8.青年期と幼児期の関係性 < 反抗期>

第一次反抗期(2歳半前後)

第二次反抗期(14~17歳)

○自我の芽生え

親の意向をスムーズに受け入れていたように 見えた子どもが、この時期になると、自分の 考えと欲求の表現が言語的にも行動的にも豊 かになる。そのために、親の意向に対する子 どもからの対案も多くなり、親にとっては聞 き分けなく映るようになる時期である。

○巣立ち準備

一個の大人として親から独立して生活して行くためには自分を操縦して行かねばならず、 そのためには自分を外側から見て、自分がどういう人間であるのかが分かっていなければならない。家以外の人との付き合いを重視するようになり、家に寄り付かなくなる。

○自己の主張

親にとってはできるだけ諭す方がいいのであるが、なかなかしづらいところである。親からすれば反抗と映り、子にすれば自己の主張がなかなか通らないという思いが高じて葛藤が生じることになる。

○自我の探求

自分を探し自分を見つけ出すためには自分を 見つめ、自分を語ること、つまり自問自答が 必要になるが、思春期にあっては自我が急速 に豊かに伸びるため言語が追いついていない 状態になっている。進路選択などと重なり、 重要な時期にあまり話さなくなることで親が 不安になる。

2016/4/1 作成



2-9. 幼児期の問題行動とその背景

「問題行動例2件の子どもの背景について、赤字の2択の中からあてはまると思われる方に○をつけてください。またそう考えられる理由について記述してください。

● 個人:5分



2-9. 幼児期の問題行動とその背景〈解説〉

個人名	子どもの状態	背景
① R子 ちゃん	4歳児のR子ちゃんは、一人で遊ぶことが目立っている。たまに一緒に遊んでいても、ちょっとした理由から厳しく友達を注意し、時には手が出てしまった。結果、友達とのコミュニケーションがうまくいかず「こわい」と言われてもり傷ついてはいる。本人もそれを聞いてしまってはいるが、どうして指摘ごかりしてしまう。R子ちゃんは、日から保育士にスキンシップを求めたり会話を進んでしてくることはなく、自分のことは自分でやろうとする姿が目立っている。	R子ちゃんの家族構成は、父、母、(姉/弟)。 (姉/弟)は、自由な性格である。 父は病気を患っており、入退院を繰り返している。 母は(完べき主義/放任主義)で、仕事は(忙しい)/休職中)。 母親は、保育者に対して(相談する/気丈に振舞う)ことが多い。

2016/4/1 作成 無断複製禁止 子育て学協会 57



2-9. 幼児期の問題行動とその背景 <解説>

個人名	子どもの状態	背景
② K君	3歳児のK君は、集まりの際も着席し続けることが難しく、すぐに立ち歩こうとする。自由遊びでは、いくつもの遊びを少しやっては移動している。長時間集中することが困難なようである。また、うまくいかないとかんしゃくを起こし、大声で怒鳴ったり激しくすねてみせたりする。他児の使用しているものも了解を得ずに使おうとするので、1日中トラブルが絶えない。	母は、お迎えに来ると (すぐ に帰ろうと促す/いつまでも



履修ゴール

自己形成の基盤を作る上で、社会の最少単位である 家族と子育ての関係を理解する

家族の成長課題を知る

乳幼児期の子どもの健全な成長に影響する 家庭教育について知る



3-1. ライフサイクルについて

第1期:結婚から第1子の誕生まで

新しい生活に意欲的

違いを受容していく

共に生活をしていく厳しさ

第2期:第1子の誕生からその子が学齢に達するまで

家族が増える喜び

生活形態の見直し「自律=体と心のコントロール(しつけ)

第3期:第1子が学童期を迎えてからその子が思春期になるまで

子どもの成長

コミュニケーションの欠如

生産的な活動への興味・社会参加

第4期:第1子が思春期に達してから、その子が社会的に独立するまで

親自身の時間が増える

親への反抗

親子の巣立ちの準備

自己の確立

第5期:子どもが独立してから夫婦の一方がかけるまで

夫婦の時間

老化への不安

2016/4/1 作成 無断複製禁止 子育て学協会 60



3-1. ライフサイクルについて 第2期における「父親・母親にありがちな葛藤」 について考えてみましょう。

第2期:第1子の誕生からその子が学齢に達するまで

各自思いつくものを考えてみてください。

グループ:3分



3-2. 家族関係で大切にしたい課題について

- 親になるということ
- 信頼感を育てるということ
- 自律心を育てるということ

親にとっても自分自身を再度成長させる 「アイデンティティ獲得」の機会



3-3. アダルトチルドレンについて

「安全な場所」として機能していない家族の中で育った子

- 周囲が期待しているように振る舞おうとする
- NOが言えない
- 楽しめない
- ふりをする

生きづらさがある



3-4. 家庭教育について

家庭教育は、すべての教育の出発点

家族のふれ合いを通して、子どもが、基本的な生活習慣や生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操、他人に対する思いやり、基本的倫理観、自尊心や自律心、社会的なマナーなどを身につけていく上で重要な役割。

生活の場で(ある家庭で)の「しつけ」が重要である

- 直接的「しつけ」=大人のかかわり方で身につけていくもの
- 間接的「しつけ」=日常の中で大人(親)の態度や行動を子どもが 見ながら自然に身につけていくもの



(休憩5分)



履修ゴール

現代の子どもを取り巻く環境を知り、 視野を広げ、つながりを理解する

社会で起きている事象を知る

子どもを取り巻く教育環境を知る



4-1. 事前課題④についてのディスカッション 「待機児童問題、ネグレクト、児童虐待、シングルマザー、オルタナティブ教育」の中から、どれか 1 テーマについて、自由にまとめてください。

- 上記についての各自回答を共有し、 議論してください。
- グループ:5分



4-1. 事前課題④についてのディスカッション

:解説

子育てに対する視野を広げることの大切さ



4-2. 待機児童問題について

● 待機児童とは

保育所に入所申請をしているのにも関わらず満員である等の理由で 保育所に入所できない状態にある児童

● 主な原因

不景気・女性の社会進出による共働きの増加。(都心部に集中)

一方、少子化が進行し、合併・閉鎖する園が相次ぐ。(地方の状況)



70

4-2. 待機児童問題について

R2年4月12,439名

R3年4月 5,634名

R4年4月 2,944名

待機児童数トップ3 (R4.4)

1位:沖縄 439名 2位:兵庫 311名 3位:東京 300名

待機児童数0名

青森、山形、新潟、富山、石川、福井、山梨、岐阜、鳥取、島根 徳島、長崎、大分、宮崎

(R4.4厚生労働省調査より)



4-3. ネグレクトについて

• ネグレクトとは

健康状態を損なうほどの不適切な養育、または子どもに対する 重大な不注意を犯すこと。

ネグレクトの種類

- ・衣食住の身体ケアを与えない(栄養ネグレクト・衣服ネグレクト・衛生ネグレクト)
- ・発達に必要な情緒的ケアを与えない(情緒ネグレクト・愛情剥奪症候群)
- ・子どもの安全を守るために必要な監視を怠る(環境ネグレクト)
- ・必要な医療や乳児検診・予防接種を受診しない(保険ネグレクト・医療ネグレクト)
- ・必要な教育を受けさせない(教育ネグレクト)
- ・その他、捨て子、親子心中
- ・消極的ネグレクト・・・親に何らかの理由があり、十分な育児が出来ない (貧困状態・精神疾患・知的障害等)
- ・積極的ネグレクト・・・親に事情がないのに育児をしない



4-4. 児童虐待について

虐待とは

立場の弱い者に対して酷い取り扱いをすること

児童相談所の対応件数 R3年度 207,659件 (R2年度 205,044件)

● 児童虐待の種類

身体的虐待・・・殴る・蹴る・火傷・首を絞める・戸外に締め出す等

性的虐待・・・性的な行為の強制等

心理的虐待・・・大声・脅し・無視・暴言・子どもがDVを目撃等

ネグレクト・・・養育・保護の放棄等

判断基準)子どもも親も自分からは話さない。泣き声・身体のケガ・ 清潔・食事の仕方などの様子で判断する。

対応)児童相談所・福祉事務局・市町村の担当窓口 ※早期発見が解決に繋がる。



4-5. オルタナティブ教育について

オルタナティブ教育とは

「非伝統的な教育」「教育選択肢」と訳され、 主流または伝統とは異なる学習方法を意味する



4-5. オルタナティブ教育について

● モンテッソーリ教育・・・イタリア

感覚教育

- *敏感期(発達段階に合わせた習得)
- *教具(形・大きさ・手触り)
- *体感覚のある形容詞
- *自発性を大切にする
- *子どもサイズ
- *「一人できる」ということ





4-5. オルタナティブ教育について

- シュタイナー教育・・・ドイツ
- *人間の成長を7年ごとの周期で考える

第1期0~7歳・・エーテル体(魂と身体)・・・生活リズム・関わる大人

第2期7~14歳・・アストラル体(感情と印象)・・・芸術

第3期14~21歳・・自我・・・表象・・・イメージを描く

- * 4 つの気質子どもの気質を四体液説で見る胆汁質、多血質、粘液質、憂鬱質
- *素話、顔のない人形







4-5. オルタナティブ教育について

- 森のようちえん・・・デンマーク
- *異年齡
- *園舎を持たない幼稚園
- *子どもの力を信じる
- *自然体験の重視
- *遊びを通して学ぶ
- *自分たちで考える









4-5. オルタナティブ教育について

- その他の教育について
 - ・フレネ教育(フランス)・・・対話・自由作文
 - サドベリー・スクール(アメリカ)・・・スクールミーティング・ 選択の自由
 - ・フレーベル(ドイツ)・・・恩物・歌あそび・丸い庭
- フリースクールの必要性
 - 不登校
 - ・自分の道を目指す子どもたち(芸能活動やゴルフなどスポーツ)
 - ·Net高校



4-6. これからの教育について

- これから求められる人材について
 - OECD(経済協力開発機構)より

『読解力』

- ①論理的に思考して表現する力
- ②人間関係を豊かにする力
- ③イメージや感性を豊かにする力
- ④実践や行動につなげる力
- ⑤自分を励まし創る力
- ⑥自分とその違いを評価する力



4-6. これからの教育について

バカロレア教育について

「国際的な視野をもつとはどういうことか」? 具体的には、IB認定校が価値を置く人間性とは・・・

- ・探究する人
- ・考える人
- ・信念をもつ人
- ・思いやりのある人・挑戦する人

・心を開く人

・知識のある人

コミュニケーションができる人

・バランスのとれた人・振り返りができる人

2016/4/1 作成

本日のアジェンダ



- 1. CFC概論
- 2. こころのこと①、②
- 3. かぞくのこと
- 4. 現代子育てのこと

まとめ・事後課題・アンケート

く振り返り①> 本日のまとめ





本日のキーワード

● CFCにとって大切なこととは?

CFC概論

視点を変えてみること

2. こころのこと

CFCのベースとなる発達心理学を理解する

3. かぞくのこと

家族と子育ての関係を理解する

4.現代子育てのこと

子どもを取り巻く環境を知り、視野を広げ、 つながりを理解する

く振り返り②> 事後課題



事後課題①

学んだことを踏まえて、自身の周りの子どもと大人を観察し

- 「子どもについて」・・子どもの好きなこと、よくする行動
- 「親の葛藤について」・・子育ての喜び、不安 にどのようなものがあるかを考察してください。
- ※可能であれば親にインタビューしていただき、その内容をもとに本日学んだ発達心理学と合わせて「気づき・感想」をレポートにまとめてください。

く振り返り②> 事後課題



事後課題②

親子観察

子ども(未就学児)に対して母親がどんな言葉かけや行動をしているか観察する。

※リアルな子育てでどのような行動や言葉かけが多く行われているかを 観察し、「気づき・感想」をレポートにまとめてください。



- 次回は 12/16(土)です
- またお会いできるのを楽しみにしております

2016/4/1 作成 無断複製禁止 子育て学協会 84

アンケートのご記入をお願いします





- *提出方法*
- ・スクショ写真
- •PDF化したもの
- →メールに添付

本日の課題をメールでご提出ください

To: info@kosodategaku.jp